



Kojima Sustainability Report



2025

会社概要

社名 小島プレス工業株式会社 所在地 愛知県豊田市下市場町3丁目30番地
 創業 1938年5月20日 資本金 4億5,000万円
 代表者 取締役社長 小島 栄二 売上高 2,328億円(2024年)
 社員数 1,564名(2025年4月付)

主要取引先 トヨタ自動車(株)、トヨタ車体(株)、トヨタ紡織(株)、トヨタ自動車東日本(株)、
 豊田通商(株)、(株)アイシン、(株)デンソー、ダイハツ工業(株)、日野自動車(株)、(株)豊田自動織機、(株)ジェイテクト、
 林テレンプ(株)、トヨタバッテリー(株)、(株)SUBARU、プライム プラネット エナジー&ソリューションズ(株)



沿革

年	主要事項
1917	小島濱吉、名古屋市南区熱田神戸町に小島商店を開業(現・名古屋市熱田区伝馬)
1933	小島商店を法人に改組し、合名会社小島商会となる
1938	合名会社小島商会を小島プレス工業所に改称し、トヨタ自動車工業(株)(現・トヨタ自動車(株))の協力工場となる【創業元年】
1945	挙母町へ工場疎開(現・豊田市)・挙母町の小坂新工場完成
1950	小島プレス工業所を(株)小島プレス工業所に改組
1957	挙母市下市場町に工場完成(現・豊田市下市場町) プレス部門を下市場工場へ移し、小坂工場で合成樹脂部門が発足
1959	(株)小島プレス工業所を小島プレス工業(株)と改称
1970	豊田市住吉町の高岡工場で合成樹脂部品の一貫生産体制が整う
1978	西加茂郡藤岡町に藤岡研究所が完成(現・豊田市藤岡町) 加工法開発、材料開発、商品開発を主軸とした当社初の本格的な研究開発がスタート
1988	創立50周年を迎える
1994	本社エイワビルが完成。事務・技術部門の機能を集約し、組織運営をスムーズ化
1995	こじま教育センターが開校。愛知県の職業訓練施設として認定を受ける
1999	西加茂郡三好町に小島総合研究所を設立(現・みよし市福谷町) オール小島の総合研究所として最新技術の開発、発展に取り組む
2003	西加茂郡三好町の黒笹技術センターが本格稼働(現・みよし市黒笹町) 電子部品の開発拠点として設計から試作までの体制を整える
2019	自動車業界が100年に一度の大変革期の中、『インテリア事業・ゼロエミッション事業・新事業』の経営方針を決定
2021	事業領域本部制を導入
2024	MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)を策定

創業者・小島濱吉の手帳より

我社の本領は最大の会社たらんとするに
 あらずして常に良品を製造する会社で有る事



基本理念

■ 社是



会社内だけの『和』ではなく、より広範囲におよぶ『和』、すなわち家庭の『和』を基盤とする集合が会社、地域、さらに国際社会の発展につながると考えています。

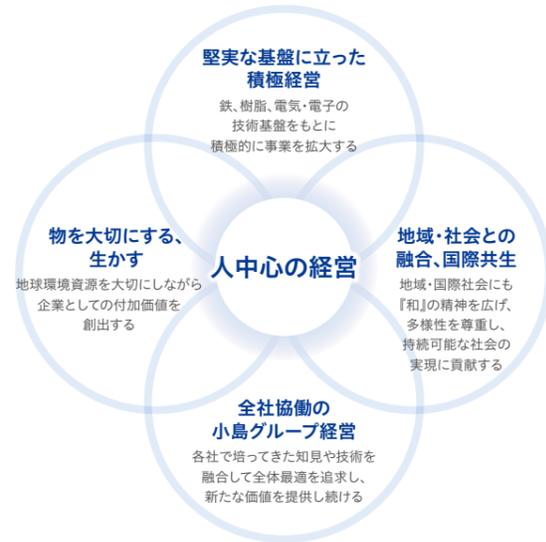
■ 長期テーマ

人をつくり 人をまもる
 対話と参加

社是『和』の精神を受け、相互に対話し参加して、社会に貢献できる企業人を育み、真に豊かな人づくりを目指しています。

経営の基本的考え方

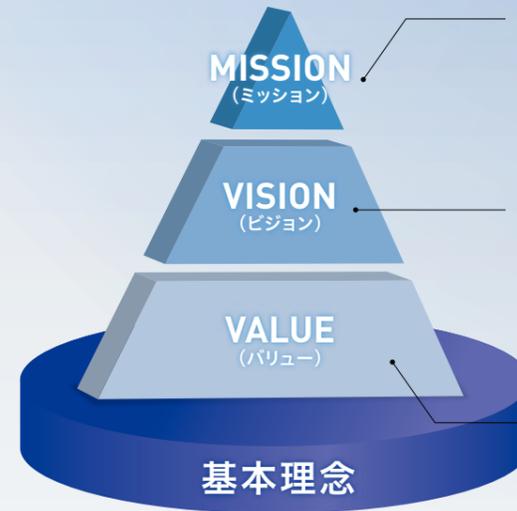
経営の基本的考え方は『人中心の経営』をかくとして、4枚の花びら(4つの経営の基本)が咲いている姿で表すことができます。



MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)

2023年に創立85周年を迎え、これからの先行き不透明な時代を乗り越えるための羅針盤として、MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)を策定しました。また、MVVは創業から脈々と受け継がれている基本理念の

考え方をベースに構成しました。2038年に迎える創立100周年に向けて、全社員が共通認識を持ってベクトルを合わせ、世の中に新しい価値を生み出す企業を目指します。



社会における使命・存在意義
わたしたちは造る、世の中に新しい喜びを
 わたしたちが想い描く未来は、多様なニーズが満たされた喜びにあふれた社会です。当社はモノづくり企業として、これからも世の中に対して新しい価値(喜び)を造り続けていきます。

創立100周年で目指す姿
一人ひとりが考動し、期待を超える会社になる
 2038年の創立100周年に向けて、一人ひとりが能動的に考えて動くこと(考動)で、世の中のニーズ(期待)を具現化し、すべてのお客様の期待を超える会社を目指します。

大切にしていこう価値観・行動指針
Kojima Way
 ミッション・ビジョンの達成に向けた全社員共有の価値観・行動指針です。

VALUE Kojima Way

オール小島全社員共有の価値観・行動指針であるバリュー、総称『Kojima Way』。7つの言葉の先頭には『考動しよう』を入れており、その考え方の本質や意味合いも端的に併記しています。この7つの価値観を基に一人ひとりが考え動くことで、ミッションとビジョンの達成を目指します。

- 考動しよう、「あなた」のために** ~自分のお客様の期待を正しく理解して、思いやりを持って誠実に向き合おう~
- 考動しよう、好奇心を持って** ~視野を広げて、あらゆる角度から見極めよう~
- 考動しよう、先を見据えて** ~その先にある未来を想像して、可能性を広げよう~
- 考動しよう、一回でも多く** ~素早く迅速に挑戦のサイクルを回して、変化を乗り越えよう~
- 考動しよう、余力を生み出すために** ~改善を積み重ねて、次に進むエネルギーを生み出そう~
- 考動しよう、今以上を目指して** ~技を極めて、情熱とともに未来につなごう~
- 考動しよう、「わたし」のために** ~自分の仕事に自信と誇りを持って仕事をしよう、そして仲間へ感謝しよう~

目次 CONTENTS

事業内容・製品紹介	04	人財育成	24
拠点紹介	06	健康経営	26
Top message	09	安全・安心な事業活動	29
オール小島サステナビリティガイドライン	11	お客様満足	31
マテリアリティ	12	サプライチェーン	33
環境マネジメント	15	地域・社会貢献	34
人権の尊重・働きやすい職場づくり	23	コーポレートガバナンス	37

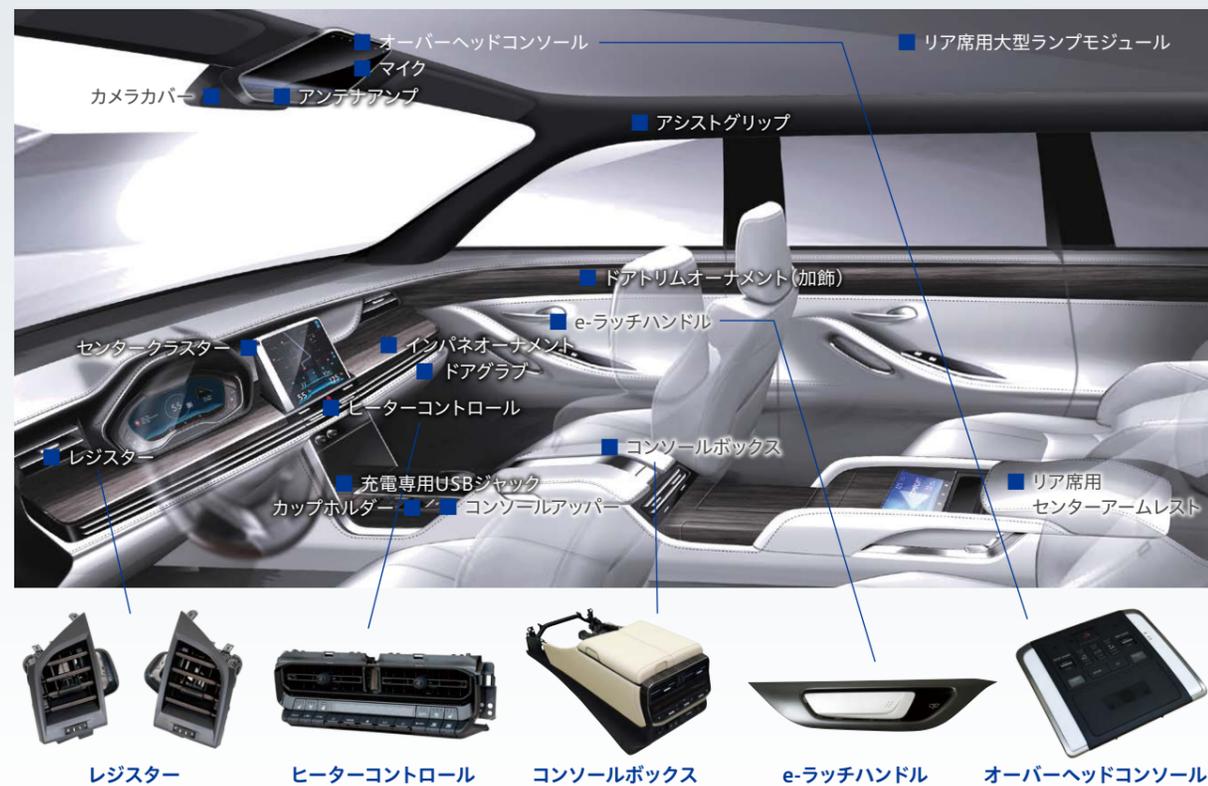
事業内容・製品紹介

当社は約1万2,000点の自動車部品を製造しています。
『良いものを、より安く、タイムリーにお客様へ届ける』というモノづくりの原点に立ち、お客様のニーズに応えるため、新技術・新製品の開発に取り組んでいます。

インテリア事業領域

インテリア事業領域では、車室内全体での提案活動を実施しており、より快適な空間を提供する価値を追求しています。車の構造や使われ方が変化中、市場調査や未来予想などを積極的に実施し、開発の段階からユーザー体

験を重視した製品を提案。技術を融合して新たな付加価値を生み、社会空間と車室内空間をつなぐことで未来のモビリティ社会の実現に貢献していきます。



ゼロエミッション事業領域

ゼロエミッション事業領域では、電池ユニット、床下、フロントの3つのゾーンで提案活動を実施しています。電動化の加速に伴う電池ユニットゾーンの進化だけでなく、床下・フロントゾーンも空力性能に貢献して、燃費・電費改善にお

いて大きな役割を担います。『環境に良い商品、モノづくりの提供により地球と人の笑顔を実現する』をスローガンに、各ゾーンで良品廉価を追求するだけでなく、互いの相乗効果によって付加価値につなげていくことを目指しています。



新事業領域

当社が磨いてきたコア技術を活かし、次世代の柱となる新事業・新商品の創出に取り組んでいます。自動車部品のみならず、『SDGs(食品ロス低減)』、『カーボンニュートラル』を始めとした、社会課題の解決を通じて世の中へ新しい価値を届けることを目指します。

■SDGs(食品ロス低減)

自動車部品製造で培ってきたコア技術を応用し、社会課題である食品ロスの低減に向け、初の農業分野に挑戦しています。薄膜技術である蒸着重合の技術を応用し、空气中に存在する菌・カビの繁殖を抑制する防カビシート『Ma'mold』を開発。一般的に食品に使用される防カビ成分は揮発性が高く数日で効果が薄れますが、Ma'moldでは成分の放出量を適度に調整できます。これを野菜や果物の海外輸送時に活用することで、腐食による食品ロスの低減に加え、輸送可能な距離が増加し、グローバルな食料安全保障への貢献につなげます。



■カーボンニュートラル

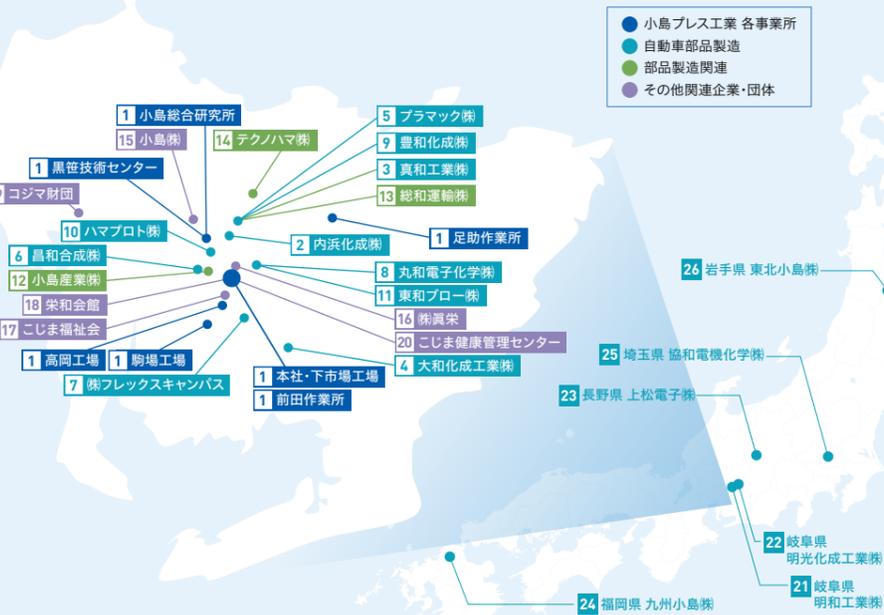
ネガティブエミッション技術として、直接大気中のCO₂を回収するDAC(Direct Air Capture)システムの開発に取り組んでいます。当社が目指すDACは、一般的な固定式の大型DACとは異なり、小型化することでトラックなどの移動体の空きスペースへの搭載を可能にし、走行風を利用しCO₂を回収。大気を吸引する大型ファンを使わない省エネルギーな小型DACです。外装部品開発で培った空力技術を用いて、極低速から高速まであらゆる走行速度で安定して効率良くCO₂を回収。回収したCO₂の利活用における課題にもビジネスモデル特許を取得し、カーボンニュートラルを実現する様々な技術を持った企業とも連携を進めていきます。また、NEDO※のムーンショット型研究開発事業への採択により産学官とも連携し、早期の社会実装を目指します。

※国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



拠点紹介

オール小島では、製造業の原点である『良いものを、より安く、タイムリーにお客様へお届けする』ことを追究し続けています。ここでは、さらなる飛躍を目指して一丸となって取り組んでいる、小島プレス・グループ各社を紹介します。



愛知県内の拠点

1 小島プレス工業株式会社
愛知県豊田市下市場町3-30
社員数 / 1,564名
事業内容 / 自動車内外装部品、パワートレイン周辺部品の製造
主要製品 / カウルルーバー、コンソールボックス、バッテリーケース、内装加飾パネル、オーバーヘッドコンソール、ヒーターコントロール

下市場工場
愛知県豊田市下市場町3-30
事業内容 / 金属・樹脂部品の生産

高岡工場
愛知県豊田市住吉町平和55
事業内容 / 樹脂部品(内装・外装)の生産

黒笹技術センター
愛知県みよし市黒笹町丸根1099-2
事業内容 / 電子部品の開発・設計・試作・生産、生産技術の開発

小島総合研究所
愛知県みよし市福谷町久伝15
事業内容 / 自動車部品・新事業の研究開発

前田作業所
愛知県豊田市前田町2-48
事業内容 / 精密鉄部品のプレス加工・切削など

足助作業所
愛知県豊田市桑田町北貝戸20-20
事業内容 / 自動車用樹脂部品の製造

駒場工場
愛知県豊田市駒新町金山59
事業内容 / 補給部品の保管・梱包・出荷

2 内浜化成株式会社
愛知県豊田市四郷町宮下河原1
社員数 / 502名
事業内容 / 自動車外装部品、エンジン機能部品、FRP・非量産部品の製造
主要製品 / ロッカーモール、オーバーフェンダー、アンテナカバー、スライドレールカバー

3 真和工業株式会社
愛知県豊田市西中山町丸根25-1
社員数 / 208名
事業内容 / 自動車金属・樹脂部品事業、航空機部品事業、物流器具事業
主要製品 / オーディオブラケット、ハイブリッド関連部品、カメラカバー、インパネ、コンソール関連部品、航空機部品

4 大和化成工業株式会社
愛知県岡崎市保母町字上平地1
社員数 / 403名
事業内容 / 自動車部品の製造
主要製品 / ワイヤハーネスクランプ、ワイヤハーネスプロテクター、各種クリップ

5 プラマック株式会社
愛知県豊田市御船町山ノ神56-321
社員数 / 278名
事業内容 / 自動車用樹脂部品の製造
主要製品 / フロアカバー、エンジンアンダーカバー、四方ダクト、フェンダーライナー、アブソーバー

6 昌和合成株式会社
愛知県みよし市筋生町池上12
社員数 / 242名
事業内容 / 自動車用内装部品の製造
主要製品 / ドアグラブ、インサイドドアハンドル、本木・フィルム部品

7 株式会社フレックスキャンパス
愛知県岡崎市鴨田町字末広50
社員数 / 77名
事業内容 / 自動車部品の製造
主要製品 / ワイヤハーネスクランプ、各種クリップ

8 丸和電子化学株式会社
愛知県豊田市神池町2-1236
社員数 / 306名
事業内容 / 自動車用電子部品の製造
主要製品 / オーバーヘッドコンソール、ヒーターコントロールなどの電子部品

9 豊和化成株式会社
愛知県豊田市西中山町西宮前45-1
社員数 / 512名
事業内容 / 自動車用内装プラスチック部品の製造
主要製品 / レジスター、スピーカーグリル、アシストグリップ

愛知県外の拠点

21 明和工業株式会社
岐阜県多治見市笠原町993
社員数 / 224名
事業内容 / 自動車部品の製造
主要製品 / カップホルダー、小物入れ、コインボックス、加飾(スパッタリング)、灰皿

22 明光化成工業株式会社
岐阜県恵那市明智町字大久手1001-228
社員数 / 258名
事業内容 / 自動車用樹脂部品の製造
主要製品 / アシストグリップ、ピラーグリップ、シフトノブ

23 上松電子株式会社
長野県木曾郡上松町大字上松188
社員数 / 285名
事業内容 / 自動車部品の製造
主要製品 / 通信USB、充電USB、e-ラッチ、マイク、アンテナ

24 九州小島株式会社
福岡県若市磯光野々志原1010-5
社員数 / 272名
事業内容 / 自動車用電子部品、樹脂部品の製造
主要製品 / オーバーヘッドコンソール、コンソールボックス、ドアグラブ、カウルルーバー、エンジン吸排気樹脂部品

25 協和電機化学株式会社
埼玉県飯能市茜台2-5-1
社員数 / 264名
事業内容 / 自動車部品の製造
主要製品 / アーチモール、ロッカーモールなどの外装部品、コンソールボックス、シフトパネル、ドアグラブ、カメラブラケット、ルーフコンソールなどの内装部品

26 東北小島株式会社
岩手県北上市相去町山根梨の木43-130
社員数 / 88名
事業内容 / 自動車部品の製造
主要製品 / コンソールボックス、カウルルーバー、ロッカーモール、内装加飾パネル

10 ハマプロト株式会社
愛知県みよし市福谷町四反田16-1
社員数 / 150名
事業内容 / 自動車用樹脂部品、鉄部品の製造
主要製品 / BEV・PHEV・HEV向け電池関連部品

11 東和ブロー株式会社
愛知県豊田市神池町2-1236-555
社員数 / 68名
事業内容 / 自動車用エンジン機能部品の製造
主要製品 / エアークリーナーホース、オイルセパレーター、ターボチューブ、レゾネーター

12 小島産業株式会社
愛知県みよし市筋生町上永井田50
社員数 / 107名
事業内容 / 自動車部品用合成樹脂材料および薄板鋼板の販売、合成樹脂材料着色造粒加工、合成樹脂材料リサイクル加工
主要製品 / 薄板鋼板、合成樹脂材料、合成樹脂リサイクル材料

13 総和運輸株式会社
愛知県豊田市西中山町丸根25-1
社員数 / 59名
事業内容 / 輸送事業、物流事業

14 テクノハマ株式会社
愛知県豊田市深見町鳥目1026
社員数 / 109名
事業内容 / 樹脂成型・プレス成型・各種生産設備の設計および製造

15 小島株式会社
愛知県日進市米野町南山973-230
社員数 / 68名
事業内容 / 小島グループ全体のガバナンス管理(会計・業務監査)、小島プレスのホールディングカンパニー機能

16 株式会社真栄
愛知県豊田市花丘町3-16-10
社員数 / 37名
事業内容 / 建設業および緑地管理業務、一級建築士事務所、清掃、ビル管理などのサービス業務、関連資機材の予約販売・賃貸、不動産取引のコンサルタント業務

17 社会福祉法人 こじま福祉会
こじまこども園
愛知県豊田市金谷町7-30
職員数 / 46名 事業内容 / 保育事業
こじまキャンパス
愛知県豊田市住吉町平和77-2
職員数 / 28名
事業内容 / 自動車用樹脂部品の製造
主要製品 / ドアロックノブ、エンブレム部品
豊田市さくらワークス
愛知県豊田市大成町2-1
職員数 / 9名 事業内容 / 製菓製造・販売
主要製菓 / クッキー各種

18 栄和会館
愛知県豊田市下市場町6-21
自動車部品栄和協同組合
社員数 / 35名
事業内容 / ガソリンスタンド、自動車整備工場、各種施設運営
株式会社協和
社員数 / 12名
事業内容 / 損害保険代理店、生命保険事務取扱店、各種物品賃貸業(車両リース、機械リース)、旅行事業
一般社団法人 エイワ共済会
社員数 / 1名
事業内容 / 各種チケット斡旋、スポーツセンター受付、慶弔金給付、私傷病給付、共済会融資
やわらぎ協同組合
社員数 / 49名
事業内容 / 給食事業、共同購買事業、施設管理(やわらぎスポーツセンター)

19 一般財団法人 コジマ財団
愛知県名古屋市熱田区伝馬1-4-20
事業内容 / 外国人留学生への宿泊施設の提供並びに諸事業の助成

20 こじま健康管理センター
愛知県豊田市金谷町7-20
小島健康保険組合
事業内容 / 健康保険組合事業
小島企業年金基金
事業内容 / 企業年金基金事業

海外拠点



Europe

A Daiwa Kasei Europe B.V.(DAE) オランダ
社員数/5名
事業内容/ヨーロッパの営業窓口 (クランプ、クリップ、プロテクター)

B Ecoplas Otomotiv San. Ve Tic. A.S.

Asia

C Daiwa Kasei (Thailand) Co., Ltd.(DAT) タイ
社員数/225名
事業内容/クランプ、クリップ、プロテクターなどの製造

F Daiwa Kasei India Private Ltd.(DAI) インド
社員数/12名
事業内容/インドの営業窓口 (クランプ、クリップ)

I Motherson Automotive Technologies & Engineering

D PT.Echo Advanced Technology Indonesia (EATI) インドネシア
社員数/230名
事業内容/レジスター、センタークラスター、インサイドハンドルなどの製造

G PT. Kojima Auto Technology Indonesia (KATI) インドネシア
社員数/50名
事業内容/インドネシアの営業・技術窓口

E Kojima Auto Technology (Thailand) Co., Ltd. (KATT) タイ
社員数/450名
事業内容/レジスター、カップホルダー、ヒーターコントロール、インサイドハンドル、ルーバーカウルトップ、USBジャックなどの製造

H Kojima Industries Asia Corporation Ltd. (KIAC) タイ
社員数/205名
事業内容/国際ビジネスセンターとしての一般マネジメント、技術支援、営業サポート、販売促進、人事、教育、関連会社に供給する材料の調達

North America

J D.A.Inc.(DA) アメリカ
社員数/90名
事業内容/クランプ、クリップ、プロテクターの製造

L Ultra Manufacturing Limited (Mitchell Plastics)

K Kyowa America Corporation (KAC) アメリカ
社員数/98名
事業内容/オイルセパレーター、ドアパネル、ロッカーパネルなどの製造

M Kyomex,S.A.deC.V. (KMX) メキシコ
社員数/440名
事業内容/バンパー、インパネ、オーバーフェンダー、スポイラー、アンテナカバーなどの製造

China, Taiwan

N 東莞大和化成汽車零配件有限公司 (DAC) 中国
社員数/213名
事業内容/クランプ、クリップ、プロテクターなどの製造・販売、金型製作・販売
主要製品/クランプ、クリップ、プロテクター

O 東莞龍和松汽車配件有限公司

P 寧波福爾達智能科技股份有限公司

Q 三龍産業股份有限公司

R 浙江三花汽車零部件有限公司

Top message

世の中に 新しい価値を創出し 持続可能な社会の 実現を目指す

取締役社長
小島 栄二

当社は、得意先並びにサプライヤー、そして地域の皆様に支えられながら、2025年5月に創立87周年を迎えることができました。創業以来、社是『和』や長期テーマである「人をつくり人をまもる」「対話と参加」を基本理念に、一つひとつの活動を地道に実践し、今日の経営基盤を構築してきました。

当社はこれまで『環境・社会報告書』としてステークホルダーの皆様に対して当社の事業活動を報告して参りましたが、今後も世の中に新しい価値を生み出し、社会に貢献するため、2025年4月に『オール小島サステナビリティガイドライン』を策定いたしました。これにより、会社の目指す姿や重要課題を明確にし、その課題を達成する取り組みをさらに進めて参ります。

今回、各主幹部門が計画に落とし込み、活動してきたその成果を『Kojima Sustainability Report』としてまとめ、発行しました。社会的責任を果たす報告書としての役割ももちろんありますが、社員のエンゲージメント向上を目的として全社員に配布しています。会社の基本理念にあるとおり、当社が一番大切にしているのは社員とご家族です。当社が取り

組むサステナビリティな活動や目的を知ることで、自身の仕事へ自信と誇りを感じるきっかけとなることを願っています。

現在、私達は自動車産業の100年に一度の大変革期の真っ只中にいます。地政学的なリスクや、中国のEV市場における急速な発展といった様々な問題や環境の変化がある中で、私達が生き残っていくためには、良品を製造するだけでなく、地球環境の保全や地域社会との共生、社内においては人づくりやリスク管理など、あらゆる方面でのスピードを上げた取り組みが必要不可欠です。

このような先行き不透明な時代の中、創立100周年に向けてより一層オール小島のベクトルを合わせ、世の中から必要とされる企業であり続けるため、会社の未来を示す羅針盤として2023年にMVVを策定しました。こうした会社が目指す姿を社員一人ひとりがしっかりと理解し使命役割を果たすことで、それぞれの成長を通じて持続可能な社会の実現を目指します。そして、社員の皆さんのさらなる活躍を期待するとともに、ステークホルダーの皆様には一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Kojima Sustainability



オール小島 サステナビリティガイドライン

2025年4月 策定

私達は創業以来、社是である『和』のもと、常に良品を製造する会社として活動してきました。また、人中心の経営を軸に、環境資源の保護、地域社会との共生などを通じて、社会に貢献できる人づくりを推進しています。今回、当社が事業活動を通じて持続可能な社会を実現するために、以下の指針を掲げます。

01 サステナビリティ基本方針

私達は、ミッションであるモノづくりを通じて世の中に新しい喜びを造るとともに、持続可能な社会への貢献と企業価値の向上に努めます。また、人中心の経営のもと、社員一人ひとりが考動することで、サステナビリティな事業基盤の確立を目指します。

02 行動規範

法と倫理の遵守と公正な事業運営

私達は、法令を遵守し、公正・透明な自由競争を行います。また、社会的秩序や良識に従った行動を取ることで、社会的信頼を絶えず築き上げます。

安全・安心な事業の風土醸成

私達は、すべての労働災害を未然に防ぐモノづくりや、安全意識を高める人づくりを通じて、相互啓発を中心とした安全第一の風土を醸成し、社会に安全・安心を提供します。

自発的に成長する人財の育成

私達は、正しい評価制度の運用や、社員の挑戦を支援する制度を拡充することで、社員が自発的に成長し、社会に貢献できる人づくりを推進します。

サプライヤーへの社会的責任の浸透

私達は、サプライヤーと透明・公正な取引を遵守し、事業活動のパートナーとして切磋琢磨することで、社会的責任の浸透や信頼関係の構築、企業価値の向上を目指します。

環境への貢献

私達は、『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』を構築することで、持続可能な社会への貢献を通じて企業価値の向上のために考動します。

徹底したリスク管理

私達は、リスクを未然に防ぐ管理体制の強化や、迅速なインシデント対応をすることで、様々な外部環境の変化やリスクに柔軟に対応できる企業づくりに努めます。

人権の尊重と働きやすい職場づくり

私達は、事業活動に関わるすべての人々の人権を尊重するとともに、多様な人材に合わせた多様な働き方を確保することで職場環境の風土醸成につなげます。

健康経営の推進

私達は、誰もが健康でイキイキ働ける環境や事業活動を通じて、心身の健康による明るく楽しい職場づくりの実現につなげます。

お客様満足の向上

私達は、お客様のニーズを的確に把握し、期待を超える製品・サービス・価値を提供することで、相互信頼を築き上げます。

地域社会への貢献

私達は、事業活動を通じた地域・社会との融合と、国際社会への貢献を果たすことで、持続可能な共生社会の実現を目指します。

企業情報の開示

私達は、社会的責任を果たすために必要な情報や、透明・公正かつ迅速な意思決定を行う組織体制を開示することで、誠実な事業活動を通じた企業価値の向上に努めます。

2025年4月1日
小島プレス工業株式会社
取締役社長

小島 栄二

マテリアリティ

持続可能な社会を実現するため、当社が考えるマテリアリティ(重要課題)やありたい姿、2024年度の取り組みは以下のとおりです。

項目	マテリアリティ(重要課題)	ありたい姿	2024年度の取り組み
環境 マネジメント	カーボンニュートラルの達成		<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量低減に向けた塗装ブース熱源の電動化 ●指定部品製造ラインの製造CO₂排出量低減の活動 ●指定受注部品1個当たりのCO₂排出量低減の活動 ●再生可能エネルギーの普及 ●サプライヤーへの脱炭素支援活動
	サーキュラーエコノミーの実現	『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3本柱の構築による持続可能な社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ●排出物の量とリサイクル量(率)の明確化 ●クローズドリサイクルへの挑戦 ●リサイクルハンガーの活用
	人と自然が共生する社会の構築		<ul style="list-style-type: none"> ●こじま苑での植生調査や観察会の実施 ●認証・登録制度への挑戦 (環境省自然共生サイト、あいち生物多様性企業認証) ●宮川社有林での植樹会活動
人権の尊重・働きやすい職場づくり	様々な人財・人権の尊重と多様な働き方の提供	多様な人財の働き方に合わせた職場環境の風土醸成	<ul style="list-style-type: none"> ●積極的な育児休業の取得 ●フレックスタイムの利用促進 ●福利厚生(給食の無償提供)の拡充 ●頑張った人が報われる新人事制度の運用 ●いきいきCUP開催(労働組合主催)による働き方の改善
	挑戦を支援できる制度の拡充 評価制度の正しい運用	社員の自発的な成長を支援する教育体系	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア形成(人事制度)と連動した教育体系と評価制度の構築 ●節目教育(昇格者教育・キャリア教育・入社教育)の実施 ●選択教育(社内教育・社外教育・挑戦サポート)の実施
健康経営	すべての人がイキイキ働くための健康支援	心身の健康による明るく楽しい職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> ●抗加齢ドックの実施 ●cocokaraコースの実施 ●Amazonビジネスの利用拡大 ●各種イベント(Kojiwalk、こじま杯、スポーツフェスティバル)開催による心身の健康促進
安全・安心な事業活動	安全を自分事としてとらえることができる人づくり	人を中心とした安全文化を醸成し、すべての災害の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ●社長による安全点検の実施 ●安全衛生委員会による安全相談会の実施 ●オール小島統一立哨による交通事故の撲滅 ●避難訓練や防災備蓄品の配布訓練による自然災害への迅速な対応

項目	マテリアリティ(重要課題)	ありたい姿	2024年度の取り組み
お客様満足	お客様の期待に応え、より良い価値を提供	得意先からの期待値を超えることによる相互信頼の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクト表彰への挑戦 ●トヨタ自動車を始めとする得意先からの表彰への挑戦 ●トヨタ生産方式自主研究会への参画
	良品条件の追究(工程能力の確保) 適正品質の企画(過剰品質の撲滅) 改善できる『品質』人財の育成	お客様の満足につながる、安全・安心・安定した品質の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●SSA推進活動 ●データサイエンスを活用した良品条件の追究 ●標準作業の遵守や良品条件の追究 ●QC教育や職場指定教育による人財育成
サプライチェーン	サプライヤーとの信用と信頼関係の構築	サプライヤーとともに切磋琢磨し、地域社会に貢献する企業の実現	<ul style="list-style-type: none"> ●サプライヤー展示会や講習会、オール小島サプライヤーミーティングによる相互信頼の向上 ●サプライヤーへの防火点検活動・情報セキュリティ支援・SSA現地確認会の実施 ●グリーン調達ガイドラインの発行
地域・社会貢献	事業活動を通じた地域・社会との融合、国際社会への貢献	社会課題の解決を通して持続可能な地域・国際社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流(地域観桜会・工作教室・地域清掃活動・防犯パトロール) ●社会との共生(地域防災協定) ●こじま福祉会活動(こども園・こじまキャンパスの活動・豊田市さくらワークス) ●国際交流(奨学金奨励金授与式・青海日本文化交流のつどい)
コーポレートガバナンス	透明・公正かつ迅速・即断な意思決定を行う組織体制の構築	誠実な事業活動を通じた企業価値の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●組織・管理体制の強化
	より法令遵守を浸透させる推進体制の構築	法令遵守による社会的信頼の獲得	
	リスクを未然に防ぐ管理体制の構築と迅速なインシデント対応	徹底したリスク管理による社会的責任の遂行	<ul style="list-style-type: none"> ●情報セキュリティ管理体制の強化 ●システム障害対応訓練・サプライヤーへの情報セキュリティ支援

環境 Environment



環境 マネジメント

ありたい姿

KOJIMA環境チャレンジ 2050

環境経営の3本の柱で持続可能な社会に貢献

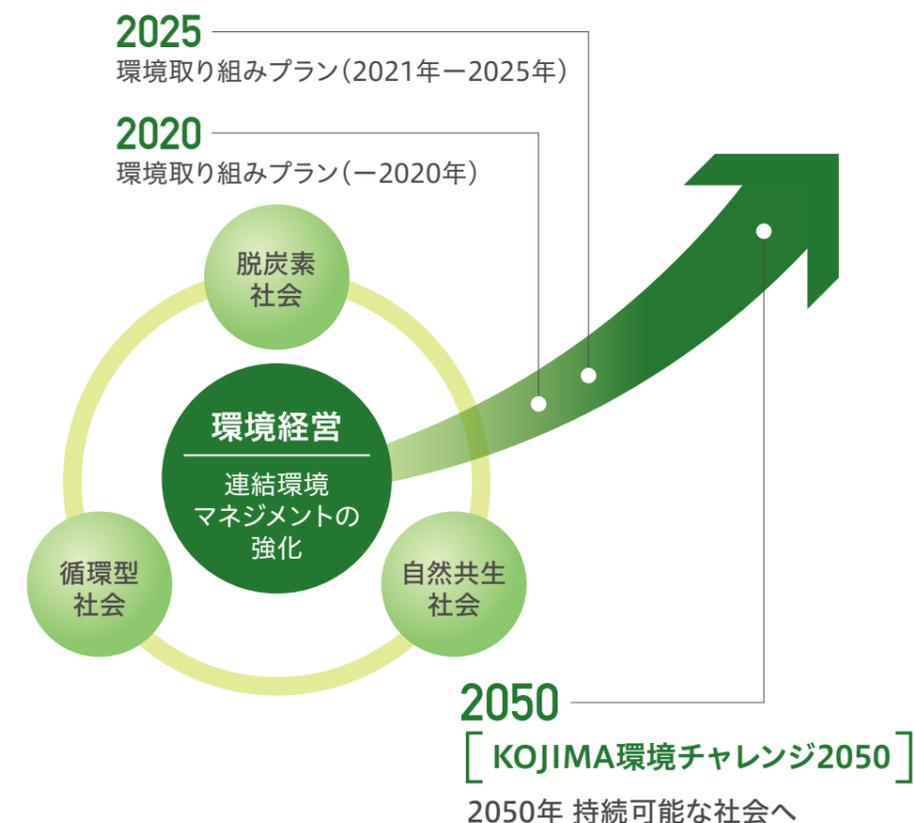


当社は創業以来、『物を大切に、生かす』という経営の考えのもと、省エネルギーやリサイクル活動を実践し、地球環境資源を大切にしてきました。今では環境問題は世界共通の課題となり、企業はより一層の環境に寄り添った事業活動が求められています。そこで当社は『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3つを環境経営の柱として、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。世の中でよく耳にするカーボンニュートラルの取り組みが先行しているように思われますが、これらの3本の柱は互いに補完し合う関係で、どれも切り離せないものです。特に2025年は自然共生活動において、豊田市の小原地区にある『こじま苑』における約60年もの里山保全活動が評価をいただき、環境省の『自然共生サイト』に認定されました。今後も持続可能な社会の実現に貢献できる企業価値の向上を目指します。

執行役員 角野 浩二 総務人事部・安全健康環境部

基本的な考え

開発・生産・物流などの事業活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献していくため、『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3本柱を構築することで環境への取り組みを推進します。



環境軸	取り組み項目	実施項目
脱炭素 (気候変動・CO ₂)	①工場CO ₂ ゼロチャレンジ	脱CO ₂ 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO ₂ 低減活動の推進、温室効果ガスの低減
	②ライフサイクルCO ₂ ゼロチャレンジ	製品開発における環境マネジメントの推進(環境負荷評価)、環境に配慮した設計、物流活動における輸送効率追求とCO ₂ 低減
循環型 (資源・水)	③水環境インパクト最小化チャレンジ	生産活動における水使用量の低減と節水活動、水のリサイクル活動
	④循環型社会・システム構築チャレンジ	生産活動における排出物の低減、再生可能資源・リサイクル材活用による枯渇天然資源の使用量低減、物流活動における梱包資材の低減と有効利用、廃車部品に対するリサイクルシステムの展開
自然共生	⑤人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ	各事業所における自然保全活動の推進、森林保全活動による環境貢献
マネジメント	マネジメント	環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動、苦情ゼロ活動の推進、製品化学物質管理の充実、環境教育を通じた啓発活動

2030年に向けた
取り組み

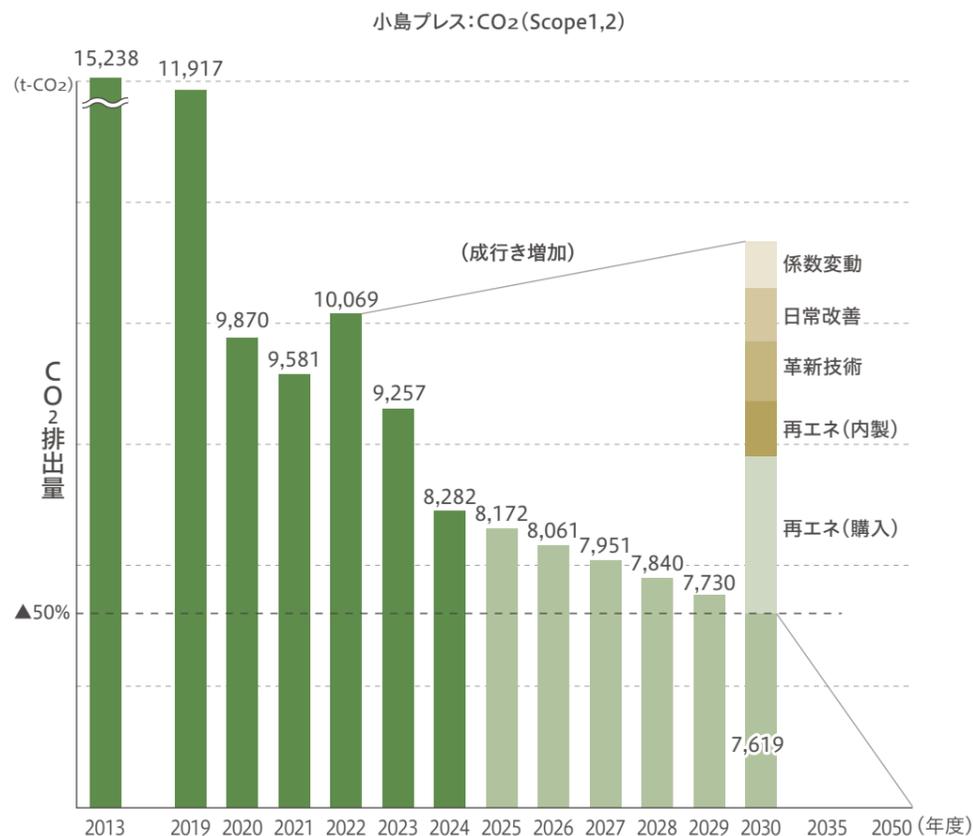
脱炭素社会

当社では、地球温暖化の問題解決に向け、CO₂排出量の低減を生産・技術の両面から推進しています。『ヤメル、トメル、サゲル、ナオス、ヒロウ、カエル』の視点で、省エネルギー（以下、省エネ）効果が見込める事例を設備ごとに一覧化した帳票を用いて、製造部門を中心にムダ・ロス低減活動に努めています。2024年度はエネルギーの可視化から見てきたムダ・ロス防止策のルール化や徹底を実施。日頃から省エネを意識した活動や燃料転換によるエネルギー使用量の減少により、2024年度の排出量は、前年比9.2%減となりました。今後は、計画的な設備の更新や革新技術を重点に置き、エネルギーの低減活動に努めていきます。

2024年度の活動

項目	目標	実績	取組内容
省エネルギー (運用改善/技術革新)	▲422 t-CO ₂	▲778 t-CO ₂	<ul style="list-style-type: none"> ●塗装工程で使用するボイラーの電動化 ●塗装機や空調の寄せ止め ●工水ポンプインバータ化/ コンプレッサーや空調更新 など
再生可能エネルギー	567 t-CO ₂	567 t-CO ₂	<ul style="list-style-type: none"> ●太陽光発電 ●CO₂フリー電気

工場CO₂-50%に向けたシナリオ ※グラフは4~3月実績



生産電力量の可視化

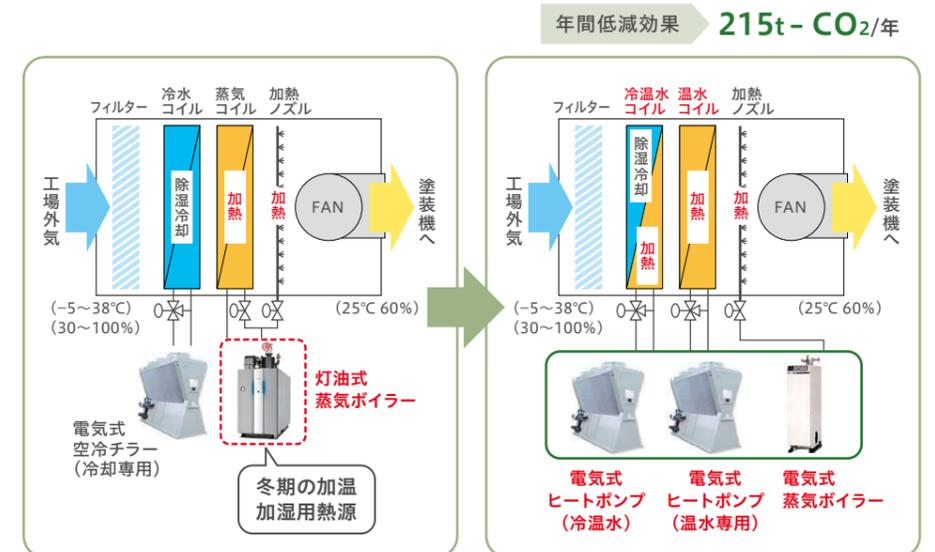
工場CO₂の排出量ゼロに向けて、2024年度は一部の製造ラインにおいて電力監視装置を設置し、電力の可視化を進めました。可視化することでムダ・ロスを発見し、生産におけるエネルギーロスの低減につなげています。日々の実績については、定例の確認会にて製造部門を中心に監視や対策、標準化を実施。今後は、標準化されたルールの横展開を徹底し、改善のサイクルを回していきます。



高岡工場での定例確認会の様子

省エネ事例:温湿度管理におけるCO₂排出量の低減

温湿度による塗装環境を整えるためにエアハンドリングユニット(空調設備)を使用していますが、従来はその供給源に『灯油式蒸気ボイラー』を使用し、冬季の加温や加湿を実施していました。CO₂排出量が少ない熱源に『カエル』という観点から『電気式蒸気ボイラー及び電気式ヒートポンプ』に更新することで、灯油使用量を大幅に低減することができています。



指定受注部品
CO₂排出量低減事例

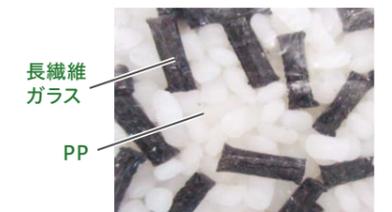
新型4Runnerに搭載されるコンソールグリップにおいて、北米仕様ではナイロン樹脂にガラスとミネラルを混ぜた材料が使用され、強度と剛性がある反面、高比重で製造エネルギーの消費量が多いことが課題でした。新たな強度の目標値に向けて、実績のあるポリプロピレン(以下、PP)に長繊維ガラスを配合した材料で、強度と剛性を担保し、材料置換が可能に。これにより、北米仕様との対比で36%の軽量化と4.4t/月のCO₂排出量の低減につなげました。



環境・製造エネルギー・軽量化・
原価低減に配慮した材料を追究

PP+長繊維ガラス

- CO₂排出量が少ない
- 長繊維ガラスを配合し強度・剛性を確保
- 質量が軽い
- 工程内で配合し安価な材料を実現



サプライヤーへの支援

サプライヤー各社に対して、より一層の環境保全活動を推進していただくために『小島プレス工業株式会社グリーン調達ガイドライン』を発行し、各種活動に対する協力を依頼しました。サプライヤーとの活動としては、2021年から協会のCO₂排出量の把握や省エネルギー（以下、省エネ）事例の展開を開始。2023年からサプライヤーと対話をする機会を増やし、CO₂排出量の低減事例の展開や、一部の主要サプライヤーの現地確認を実施しながら、カーボンニュートラルに対する取り組み状況や困りごとを共有できるようになりました。

現在は、サプライヤーが主体となって、困りごとを解決できるように活動支援を計画しています。引き続きサプライヤーと目的や目標を共有し、対話を重ねることで、サプライチェーン全体でCO₂排出量の低減活動が定着することを目指します。

主な活動内容

- (1) 環境マネジメントシステムの構築
- (2) 温室効果ガス(GHG)の削減
- (3) 水環境インパクトの削減
- (4) 資源循環の推進
- (5) 化学物質の管理
- (6) 自然共生社会の構築

2024年度実績

実績把握	190社以上
好事例紹介	27事例紹介
現地意見交換	6社



現地現物で省エネ活動を実践



サプライヤーの規模やニーズに応じて支援を実施

担当者コメント

安全健康環境部
環境保全課
本間 文晴

サプライヤー各社によって事業規模や職場環境が様々なので、各社の特徴に寄り添いながら支援をしています。サプライヤーが主体となってチームで取り組んでいることが当社の強みですね。

再生可能エネルギーの利用拡大

オール小島では、電気使用量の再生可能エネルギー（以下、再エネ）が占める割合を2025年度までに15%以上にするを目標に、太陽光発電の設置を進めています。また、太陽光発電だけではなく、CO₂フリー電気を購入し、再エネ率を高めています。



小島プレス 小島総合研究所



明和工業

	2023年度	2024年度	2025年度
目標再エネ率	5%	10%	15%

2024年度
追加設置事業所5カ所
追加発電能力 2,359,124kWh/年

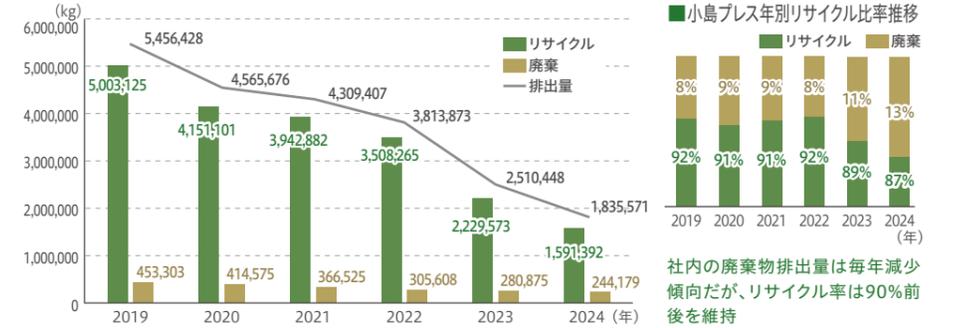
ありがたい姿・排出物の量・リサイクル率

循環型社会

サーキュラーエコノミーの実現に貢献するための手法として、オール小島では工程内の再利用、クローズドリサイクルを推進しています。その中で現在、成形時に発生する不要な樹脂材を自社の工場にて粉碎後にリペレットして活用しています。今後は、段替え時に発生する樹脂ダンゴや延べ板などの活用、そして将来的には、自動車産業以外から排出される素材におけるリサイクルの開発を進めて、生産に必要な量の確保と品質の安定を目指します。



小島プレス年別リサイクル量・廃棄物量推移グラフ



クローズドリサイクルに向けての取り組み

クローズドリサイクルとは、使用済みの製品や工場からの排出物を回収し、同じ製品や用途にリサイクルする仕組みです。生産・使用・排出・回収・再利用と、製品や資源のライフサイクルを循環し、その循環を生産者が自社内で完結していることから、クローズドリサイクルと呼ばれます。自社で発生させた排出物を自社で再度有効活用することで排出物を低減することができます。

近年では欧州の厳しい規制に対応していくため、得意先からは2030年までに新しく発売される車1台当たり30%のリサイクル材の活用が求められています。オール小島では従来から生産ラインで発生した廃却品を、自社内で粉碎してリペレット化するなどリサイクル材の活用を実施していますが、他にも再利用を可能とするさらなる素材の調査と解析が進んでいます。また、製品への再利用が難しい素材は、生産に必要な道具へ転用し、クローズドリサイクルをリードする会社を目指しています。



樹脂リサイクル取り組み (リサイクルハンガー)

樹脂成形品を塗装加工する工程には、塗装ブース内で製品を吊り掛けるために金属製治具を使用します。上松電子では廃却処理をしていた樹脂ランナーと塗膜付き樹脂をリサイクル材に加工して樹脂製吊り掛け治具を内製化しました。

再生樹脂を利用した樹脂製治具に変更したことで、吊り掛ける製品個数を4つから9つに増やすことができ、1回の塗装に使用する塗料ロスを低減。リモコンホルダーという製品では日当たり約2,000gのロス低減になり、使用する塗料は56%低減を達成しました。また、樹脂化により治具1個当たりの重量は500g低減し、塗装作業の負担軽減につながりました。リサイクル材の活用で自然環境と人に優しい職場づくりに貢献しています。



自然共生社会

自然共生サイト・
あいち生物多様性
優良認証企業の認定



こじま苑

こじま苑の希少な動植物の生息や、長年の里山環境の維持および保全活動が評価され、『令和6年度後期自然共生サイト』や『あいち生物多様性優良認証企業』の認定を取得しました。自然共生サイトとはネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みの一つとして、企業の森や里山里山、都市の緑地など『民間の取り組みによって生物多様性の保全が図られている区域』を『自然共生サイト』として環境省が認定する制度です。こじま苑を開発・造成してきた先人先輩の努力を受け継ぎ、さらに専門家からの支援をいただきながら里山を守る取り組みを進めてきた結果、希少性の高いショウジョウバカマやベニイトトンボの生息が確認されました。これまでに当社を含めて愛知県で21のサイトが登録されています。



自然共生サイト認定の 基準となるポイント

- 里山の環境が整っている
- 環境の人材育成を提供する場である
- 希少な動植物が生息している
- 生態に特殊性のある種が生息している など



苑内の竹を加工した柵で外敵から里山を守る



ショウジョウバカマ



ベニイトトンボ

担当者コメント

安全健康環境部
CN推進課
ゆづり
中尾 優里



こじま苑は1968年に小原地区の用地を譲り受け、約60年もの間、緑豊かな自然の美しさを高めるため、『人の手によって守られる自然』が維持されてきました。今後も里山としての役割・機能を維持管理していきます。

宮川社有林での植樹会

自生植物の生育に適した森林環境の維持を目的として、2022年からこじま苑に流れる水や、太陽光の明るさを調査し、保護活動に活かしています。こじま苑で10カ所の水質と15カ所の開空度を調査。その結果、水質の安定が証明され、2024年度では湧き出る水から富栄養状態で生育するミズオオバコ(絶滅危惧Ⅱ類)が確認されました。



水質調査の様子



名古屋工業大学の学生と連携し調査

名古屋工業大学や金城学院大学と連携し、植生・昆虫調査を実施しています。自然環境が保全された里山として、希少性の高い植物が見つかっています。特に絶滅危惧Ⅱ類に指定されるキンラン、イヌタヌキモ、キキョウや、準絶滅危惧のサギソウやエビネなどが確認できました。また、希少性の高い動植物に触れ合う機会を提供するため、社員とその家族を対象に植生観察会を開催しています。こじま苑に生息している植物や生き物を『観て・触れて・感じる』ことで、社員や家族の環境意識向上を図るとともに、未来へつなぐ人材の育成をしています。



植生観察会には多くのオール小島の社員と家族が参加



2019年からオール小島の社員と家族を対象に三重県多気郡大台町の社有林で植樹会を実施しています。自然条件に適した木を選んで、針葉樹と広葉樹、常緑樹と落葉樹を組み合わせ、多様性が高い森づくりを目指しています。この植樹は5年間で約439tのCO₂低減が見込まれ、活動を通じてSDGsに貢献しています。今後も、植樹活動を継続することで、生物多様性の保全やCO₂削減に取り組んでいきます。



間伐材で箸を作製



植樹の様子

社会 Social



人権の尊重 働きやすい 職場づくり

障がいを持つ社員が 職場で活躍

男性の育児休業 取得促進

給食の無償提供

基本的な考え

オール小島の社員がイキイキと働くためには、個人の権利が尊重され、様々な働き方に合わせた柔軟な制度を整えることが重要だと考えています。このような風土や環境を整備することで人権を尊重し、働きやすい環境づくりに努めています。

障がいを持つ社員の皆さんが活躍できる環境を醸成するため、従来の各職場への配属に加えて2018年から食堂スタッフとしての受け入れをスタートしています。働き方の定着を目指して、2024年より当社のグループ団体である社会福祉法人こじま福祉会での出向研修を開始。長年の運営を通して培ったノウハウを共有し、受け入れる職場の社員の人財育成につなげています。

当社では育児休業制度を無条件で2歳まで取得することができます。また、出生時育児休業(産後パパ育休)として男性社員も出生後8週間以内に最大4週間まで取得ができ、男性の育児休業取得率が向上。他にも子どもが小学校3年生まで1日の所定労働を6時間に短縮できる育児短時間勤務制度を始めとした子育てをサポートする様々な制度があり、家族との大切な時間の提供を推進しています。

男性の育児休業取得率



※女性はともに100%

育休取得者コメント

工務部
工務2課
やこと
位高 圭二



2人目の誕生を迎え、2カ月間の育児休業を取得しました。上司・同僚は快く業務分担と引き継ぎに協力してくれて、男性の育児休業の取得しやすさを肌で感じる機会になりましたね。休業中は妻と子どもの教育論について学び、意見をすり合わせる時間に充てることで家族の絆をより深めることができました。

福利厚生の一環として昼食の無料給食制度があり、メニューは日替わりの定食や丼ぶり・麺類・カレーライスから好みの食事を選んで喫食することができます。また、従来までは正社員対象の制度でしたが、近年の労働人口の減少や物価高騰など人材市場が激化する中で、社是『和』の考え方のもと、一緒に働く仲間の一体感の向上を目指して、2024年から派遣社員の方にも昼食の無償提供を開始しました。当社で就業するうれしさにつながっています。



社会に貢献できる人づくりを推進

サステナビリティな事業基盤の確立を目指して、私達は人中心の経営のもと、得意先・サプライヤー・地域の皆様に支えられながら社員一人ひとりが考動し、企業活動を継続してきました。社会に貢献できる人づくりを実践する中で、社員の人権の尊重や働きやすい環境づくりはもちろんのこと、心身ともに健康でイキイキと働く安全・安心な職場づくりを図っています。人財育成においては、時代に合わせて人事制度や教育制度を見直し、公正な評価の運用や社員の挑戦を支援する仕掛けを拡充することで、社員一人ひとりの成長を促しています。今後も、社会の皆様とともに歩み、全社員が活躍することができる人づくりを通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

専務執行役員 筏津 謙二



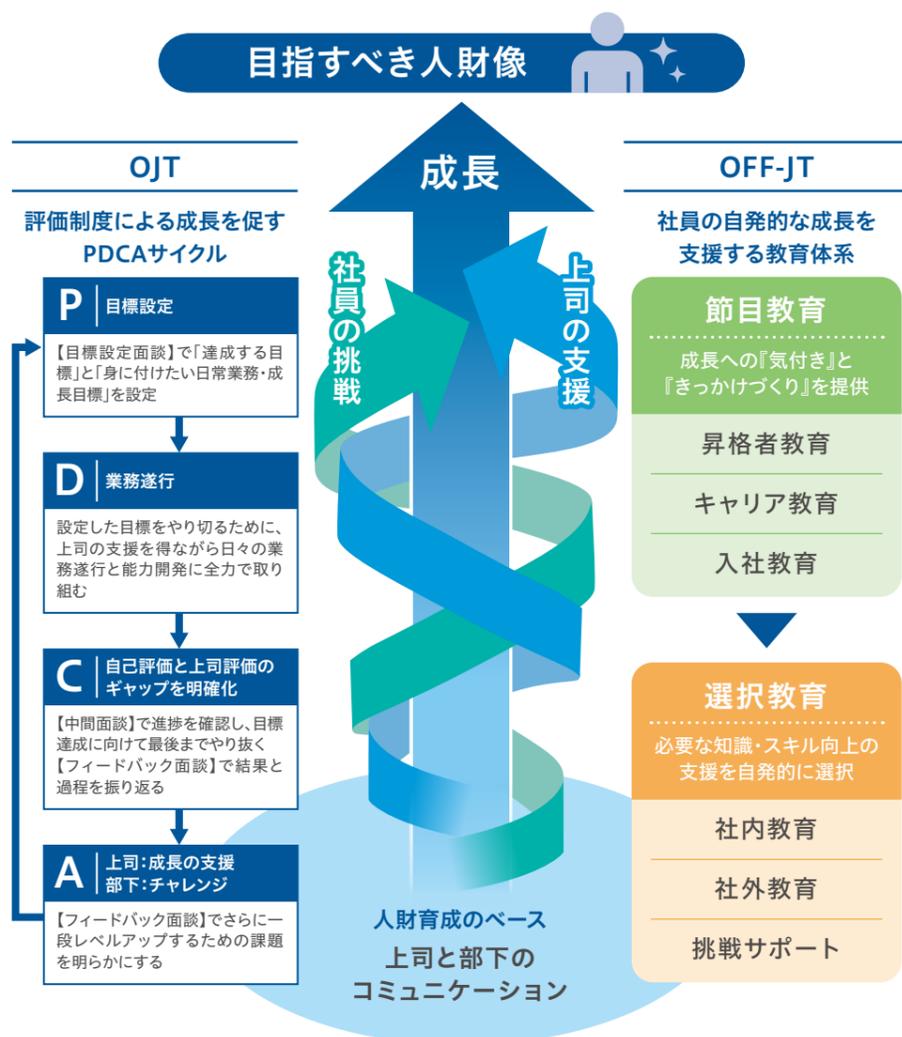
人財育成

人財育成の体系図

基本的な考え

正しい評価制度の運用や、社員の挑戦を支援する制度を拡充することが、人財育成における根幹だと考えています。社員が自発的に成長し、社会に貢献できる人を育てることが私達の使命です。

当社では、キャリア形成と連動した教育体系と評価制度を構築しています。上司と部下のコミュニケーションが人財育成のベースとなり、社員の挑戦を上司が支援することで成長のPDCAを回し、目指すべき人財像への成長を促しています。その上で成長への気付きやきっかけを提供する節目教育や、必要な知識やスキルの向上を支援する選択教育を構築しています。



担当者コメント



総務人事部
人財開発課
神谷 祐輔

時代や人事制度の大きな変化に合わせて教育体系を見直してきました。当社の人を中心とした経営にあるように、人の成長が会社の成長に必ず寄与するため、会社が社員一人ひとりにスポットを当てて支援していますので、社員の皆さんには積極的に様々な制度に参画してもらいたいです。今後も自由に教育を選択できる場やツールの拡充に取り組んでいきます。

節目教育

ありがたい姿を描き自発的な成長につなげるために、節目教育として昇格者教育、キャリア教育、入社教育を設けています。

昇格者教育

昇格した職層の『役割』と『発揮能力』の認識と向上を支援します。

キャリア教育

年齢の節目を迎える社員がキャリアを主体的に設計する支援を実施します。成長へのきっかけや気付きを提供することで、ありがたい姿を描いて自発的な成長につなげます。

入社教育

新入社員や中途入社した社員へ会社の理念やルールに関する基礎教育を実施します。



ロールプレイングを交えたマネジメント研修



約2週間にわたる新入社員の集合教育

選択教育

発揮能力や業務レベルマップと連動し、業務遂行において、必要な知識やスキルの向上の支援を自発的に選択できる制度を設けています。これにより、社員自身が描くありがたい姿に向けた挑戦を促す支援体制が整えられています。

社内教育

国家技能検定や愛知県認定技能などの業務に必要な技能の習得に向け、社員が講師となって教育を実施しています。

社外教育

社外の各団体や協会が提供している専門的なセミナーを受講することができ、その費用を補助しています。

挑戦・成長サポート

社員が自発的に成長できる支援として、eラーニングや通信教育、書籍購入・貸出を実施しています。自由な時間、タイミングで専門的な知識を習得し、自発的な成長を促しています。

実践的かつ最先端の知識、スキルが実践的に身につく



eラーニングを導入し自発的に成長できる環境を提供



社員が自由に利用できる書籍購入・貸出制度を導入

健康経営

ありたい姿

基本的な考え

安全・品質・生産性の向上には社員の心身の健康が重要だと考えています。誰もが健康でイキイキ働ける、明るく楽しい職場を実現していきます。

経営課題にサステナビリティな事業基盤の確立を掲げ、中期方針として社員の満足度とモチベーション向上を目指しています。その具体的な取り組みとして、MVVやオール小島サステナビリティガイドラインの策定、オール小島での新人事制度改革、健康経営などの多面的な活動を推進。また、全社へのアンケートやレポートの発行、ホワイト500を始めとする社外認証を活用し、社員一人ひとりが自信と誇りを持った働きがいのある働き方ができているかを評価しています。従来は生活習慣の見直しによる社員の健康づくりに注力していましたが、現在は健康づくりだけでなく、働き方全般にわたるより広い活動を通じて健康の先にある、明るく楽しい職場の実現に向けて取り組んでいます。

明るく楽しい職場の実現



推進者コメント

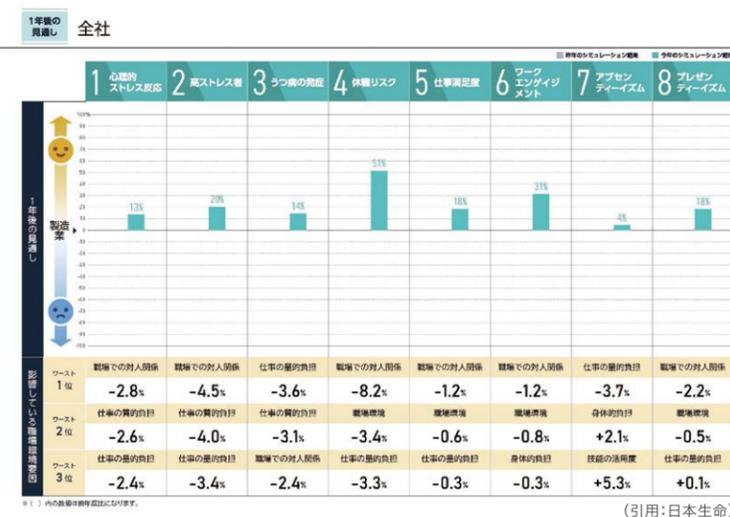
安全健康環境部
安全健康推進室
室長 水島 秀聡



健康経営の施策だけでなく、横断的な明るく楽しい職場づくりの取り組みを継続した結果、オール小島から16社が健康経営優良法人として認定されました。社員の皆さんと実施してきた健康経営の取り組みが外部から評価されたことをうれしく感じています。健康経営を推進することで、社員の健康の確保のみならず健康保険組合の医療費負担の低減につなげ、健康の相乗効果を図るとともに、持続可能な社会を実現することにも貢献していきます。

職場環境改善の活動

ストレスチェックの集団分析結果をさらに分析し、効果的かつ効率的な職場環境改善につなげるためのツールを利用しています。当社では1年後の会社の見通しとして、心理的ストレスやワークエンゲージメントなど8つの項目の傾向を把握し、各職場に合った職場環境の改善活動を実施しています。



小島健康保険組合共催のエクササイズ



隔週で月・水・金曜日の17時45分から運動習慣の定着のためにリフレッシュエクササイズを開催しています。ヨガ・ピラティス・太極拳の3種類があり、予約なしで現地もしくはZoomで参加が可能です。社員が業務後に健康増進を図る場として活用されています。

抗加齢ドック

体の老化度を評価し、病気にならないための先制医療につなげる検査である抗加齢ドックを無償で受診することができます。30歳以上の社員を対象に、骨密度や血管年齢などを測定し、老化促進の要因を特定。検査結果をもとに老化リスクの対策支援を提供し、健康寿命を延ばすことにつなげています。



cocokaraコース



検査を中心とした抗加齢ドックに加え、メンタルヘルスと運動に必要な身体能力測定に特化したcocokaraコースを新設しました。心と体を意味する造語で、10年に一度の節目に自身の心と体の衰えを予防することが狙いです。30、40、50歳の節目に受診し、メンタルチェックでは疲労ストレスの測定、身体能力測定では初動負荷マシンによる運動や長座体前屈・握力測定など体験型の内容が特長です。

健康支援品支給 (Amazonビジネス)

『明るく楽しい職場』の土台となる社員の健康支援を目的に、毎年4回、健康関連の商品を購入することができます。商品はAmazonサイトで購入。従来の制度では米が野菜ジュースの配布でしたが、選択肢が広がり社員にも喜ばれています。



1日の歩数や日々の体重管理が可能な『健康増進アプリQOLism』を活用し、運動増進を目的とした社内ウォーキングイベント『Kojiwalk(コジウォーク)』を実施しています。個人戦やチーム戦など様々なイベントを開催し、昼休憩時に会社周辺を歩く社員が見掛けられます。また、日常生活において身近な運動である『歩く』を促進することを目的としたスポーツ庁が推進する『FUN+WALK PROJECT』にも参画し、国が健康増進を図る活動に貢献しています。



休憩時間を利用し仲間と歩く

健康経営優良法人2025 (ホワイト500)

経済産業省および日本健康会議から、大規模法人部門における『健康経営優良法人』として認定されました。認定内容は、同部門法人のうち、上位500社の法人の証である『ホワイト500』です。2024年に続き、5回目の認定となりました。女性の健康の保持増進活動やストレス関連疾患の発生予防対策など積極的な取り組みが評価されました。



担当者コメント

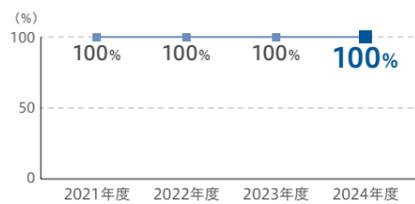
安全健康環境部
健康推進課
安藤 颯太



当社のコーポレート部門や小島健康保険組合と連携し、各種の活動が積極的に推進できたことが今回の認定に大きくつながったと感じています。今後も多角的な視点から健康を支援することで明るく楽しい職場の実現を目指します。

健康指標の推移

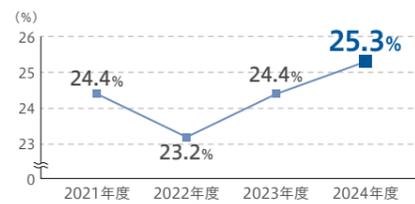
定期健康診断受診率



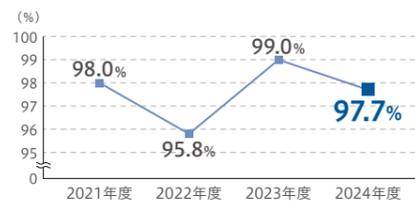
精密検査受診率



運動習慣者率



要治療判定者の治療状況確認率



適正体重者率



健康増進アプリ(QOLism)の登録者人数



安全・安心な事業活動

安全活動の目的

基本的な考え

すべての労働災害は未然に防ぐことができると考えています。安全意識を高める人づくりを通じて相互啓発できる安全第一の風土を醸成し、労働災害を未然に防いでいきます。

目指す姿

- 心身ともに健康で定年を迎える
- 『明るく楽しい職場』を目指す

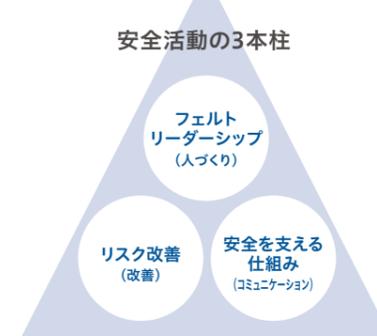
信念

- 労働安全:すべての労働災害は防ぐことができる
- 交通安全:加害者にも被害者にもならない
- 防火防災:一瞬ですべてを失う火災や災害のリスクを最小限に抑える

労働安全の3つの柱

(安全指針)

「すべての労働災害は防ぐことができる」



項目	内容
フェルトリーダーシップ (人づくり)	フェルトリーダーシップとは、率先垂範のこと。安全衛生活動においては、管理監督者だけでなく『社員全員がリーダーのつもりでフェルト・リーダーシップを発揮する』ことを目指す。
リスク改善 (改善)	リスクを特定し、リスク低減措置を実施する。⇒リスク低減措置の優先順位に沿った対策 ①本質的対策 ②工学的対策 ③管理的対策 ④保護具着用
安全を支える仕組み (コミュニケーション)	全員参加の安全活動と職場コミュニケーションの充実により、職場内に対する安全の働きかけや相互啓発ができる職場風土の醸成を目指す。

地区を越えた安全衛生活動の情報交換



地区を越えた活動を見学し会員会社の安全衛生水準を向上することを目的に、江南労働基準協会の会員21名が来社されました。オール小島の安全の取り組みや、生産現場での安全対策の事例を見学し、積極的な安全衛生活動に理解と関心を示されました。

労働安全

社員が安心して働ける職場環境を構築するために、労働安全活動をオール小島で推進しています。組織体制としては、各社・各事業所ごとに安全担当役員を選任することで、安全対策の意思決定を迅速に実施しています。

主な活動としては、社長による生産現場の『安全点検』を年に2回実施し、各工場のリスクアセスメントの内容や災害対策について確認しています。また、オール小島安全衛生委員会が年3回ずつ、グループ各社を回り、安全相談会を開催。困りごとの対策や良好事例についてオール小島での情報共有を進めています。

活動内容

- 社長による安全点検
- 安全相談会
- 安全教育
- 安全ポケットブックに関するeラーニング



社長による安全点検

安全相談会

受賞歴

長年安全活動を推進してきた結果が評価され、各事業所において表彰が贈られています。近年では、労使で協力して取り組む日頃の安全活動が他社の模範となる工場として、黒笹技術センターが厚生労働省愛知労働局より『愛知労働局長奨励賞』を受賞しました。



過去の受賞歴

- 1998年小島プレス・高岡工場『愛知労働基準局長表彰・優良賞』
- 2006年小島プレス・下市場工場『厚生労働大臣表彰・優良賞』
- 2022年小島プレス・黒笹技術センター『愛知労働局長表彰・奨励賞』

交通安全

交通安全の取り組みとして、オール小島統一立哨を実施しています。2011年から開始したこの活動では、年に3回、各社の各事業所ごとに立哨活動を実施し、地域へ交通安全を呼び掛けるとともに、社員自身の運転を見直す機会としています。また、新入社員を対象に車両解禁教育を実施。自動車学校にて適性検査や同乗指導を受け、安全運転のための視点や考え方を学ぶ機会としています。



オール小島統一立哨

活動内容

- オール小島統一立哨
- 事故速報の展開
- 車両解禁教育

防火防災

災害時に取るべき行動を全社員が体得することを目的に、毎年避難訓練を実施しています。地震発生時の初期行動を確認するため、各職場で0次避難、1次避難し、さらに社員が帰宅困難者になることを想定し、防災備蓄品の配布を訓練しました。また、2024年は0次避難場所の点検を実施。特に生産現場では、0次避難場所の付近に設備や製品が置かれていないかなど、安全性の見直しを図っています。

活動内容

- 避難訓練
- 0次避難場所の点検
- 防災備蓄品の配布訓練



避難訓練



防災備蓄品の配布訓練

お客様満足

基本的な考え

世の中に新しい価値を提供するためには、お客様のニーズを的確に把握することや期待を超える製品・サービスの提供が欠かせないと考えています。得意先とより強い信頼関係を構築し、ともに成長していきます。

プロジェクト表彰を受賞

当社は原価低減や魅力ある商品開発に対して常に新しい挑戦を続け、その取り組みがトヨタ自動車株よりプロジェクト表彰として評価されています。2024年は3賞を受賞することができました。

技術の部

ランドクルーザー搭載のサポートラジエター

従来の鉄と樹脂から、樹脂で一体化したことで50%の軽量化を達成



原価の部



レクサスGX搭載のクールボックス

ランドクルーザーと製品を共通化し、かつ構造をシンプルにしたことで原価低減に貢献

原価の部

4Runner搭載のコンソールグリップ

強度や剛性などの要求品質を明確にし、軽量化と環境負荷を低減させた材料に置き換えて原価低減に貢献



トヨタ自動車株より 年度表彰

トヨタ自動車株による2025 TOYOTA Suppliers Conventionが開催され、当社の2024年度の取り組みに対して、『原価改善最優秀賞』、『45年連続原価改善優秀賞』、『SSA推進優良賞』を受賞しました。特に、原価改善優秀賞は製品の原価企画やVE・VA活動、半期に一度の価格改定など、原価関連分野における得意先からの期待値に対して、目標値の達成状況や取り組みの姿勢が評価され、1980年から45年連続で受賞しています。



適正品質の企画

自動車部品の品質・性能の基準をユーザー目線で適正化する『SSA』を、グループ会社やサプライヤーを含めて推進しています。2024年はトヨタ自動車㈱を始めとする得意先に出向き、39回にわたり205件の案件を、車両を見ながら適正品質になるよう判断を実施してきました。さらに、オール小島で共通する外観品質の基準を作成してグループ会社やサプライヤーへ展開。正しく適正品質を判断できる人財を育成して社内SSA提案会を開催し、337件の事例を自前で検討することができました。今後もSSAを推進できる人財育成を進め、競争力あるモノづくりへつなげていきます。



SSA提案会の様子

データサイエンスによる 良品条件の追究

データ分析を活用して問題解決力を高めることを目的に、協豊会が開催する『データサイエンス実践道場』に社員が参加しました。スポット溶接の破壊検査の廃止に向け、1年間、道場の方からアドバイスを受けながらデータを活用して非破壊検査方法を確立。2025年度もデータサイエンス実践道場へ品質保証部から1名が、その他にも外部が開催する実習へ社員が参加し、生産データを分析して品質不具合を出さない工程づくりへ貢献していきます。

推進者コメント

品質保証部
機能保証課
課長 谷村 哲



データサイエンス実践道場に参加して、データ解析・分析の知見を習得することができました。さらに今後は、生産設備から取得する大量のデータを解析できる人財を育成していくことで、生産準備での品質不具合を防止し競争力のあるモノづくりを目指します。

改善できる 『品質人財』の育成

社員が講師となり改善できる品質人財の育成を目標とした教育を実施しています。2024年は統計的な解析技術を身に付け、品質の問題解決力のある人財への育成を目的に、QCやSQCの教育の内容を全面リニューアル。過去の教育内容の見直しに加え、最新の解析技術や手法も取り入れ、より実践的な内容へと変更しました。過去に教育を受講した社員も含めて、各社から受講者を受け入れ、オール小島全体であるべき姿に向けて知見の向上に努めています。



原価低減活動を通じた モノづくり人財の育成



トヨタ生産方式に基づく原価低減の推進と人財育成を目的として、2024年7～10月に、トヨタ生産方式自主研究会を高岡工場で開催しました。『考動する人を鍛える工場』の実現に向けた挑戦に、得意先を始め参加した全社から協力とアドバイスをいただきました。組付工程では混流化に向けた2車型共通の治具を考案し、成形工程では人の作業低減に向けた段替え改善で工数とスペースを低減し、目標を達成しています。

サプライ チェーン

サプライヤーとの 連携強化

パートナーシップ 構築宣言

基本的な考え

サプライヤーは事業活動を推進する上で大切なパートナーだと考えています。透明・公正な取引を遵守し互いに切磋琢磨することで、信頼関係の構築や社会的責任を果たしています。

サプライヤーを含むチーム小島の競争力向上を目指し、4月に『オール小島サプライヤーミーティング』を開催しています。調達・品質方針の説明や安全活動と健康経営の取り組みの紹介を通じて、安全・防災・品質確保、基盤強化、競争力強化などサプライヤーと目指す姿やチーム小島としての目標を共有し、コミュニケーションを図っています。また、品質向上・原価低減など様々な活動に対して貢献されたサプライヤーの皆様を表彰しています。



オール小島サプライヤーミーティング

サプライヤーの皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を図ることによる新たな価値の創出を目指して、『パートナーシップ構築宣言』を策定・公表しています。



●仕入先サステナビリティガイドライン

持続可能な社会の実現を目指し、安全・品質、コンプライアンス、人権と労働、リスクマネジメントなどについてサプライヤーへの要請事項をまとめた『仕入先サステナビリティガイドライン』を展開しています。

●小島プレス工業株式会社グリーン調達ガイドライン

企業が考慮すべき環境課題、特に環境マネジメントの進化、温室効果ガス・水環境影響の削減、資源循環の促進、自然共生社会の構築などの活動を推進するために、当社は『KOJIMA環境チャレンジ2050』を策定しています。サプライヤーの皆様と、より一層の地球環境との調和を目指した事業を推進するため、『グリーン調達ガイドライン』を展開しています。また、環境支援活動の一環として、各社を訪問し、現地・現物で確認することでコミュニケーションを図っています。

※PDF版は当社HPからダウンロードできます。
<https://www.kojima-tns.co.jp/wp-content/uploads/2024/11/green-procurement-guidelines.pdf>



●ともに成長を目指すための支援活動

サプライヤー各社の体質強化を通じたサプライチェーン全体の競争力向上を目指し、各社の様々な取り組みを支援しています。



防火点検活動



情報セキュリティ支援



SSA現地確認会

地域 社会貢献

地域交流

基本的な考え

私達にとって、地域貢献とは『地域への恩返し』であると考えています。当社が企業活動が続けることができるのは地域の皆様からの信頼や協力のお陰であることを忘れず、常に『感謝』の意識を持って地域社会との共存に取り組んでいます。また、国際交流への取り組みにおいては、中国を始めとする諸外国との友好を深め国際社会の発展に寄与しています。

地域の一員として地域住民の方とコミュニケーションを図り、日頃の感謝を伝えることを目的に、誠和寮の寮生が中心となって企画・運営する地域交流イベントを開催しています。日頃から会社の取り組みを知っていただき、地域の皆様の意見を聞くことを大切にすることで、会社と地域住民との距離感を縮めています。また、イベントの開催以外にも寮生による地域清掃や防犯パトロールなど、『自分達が住む町を自分達の手で住みやすく』する活動に取り組んでいます。

取り組み一覧

- 地域観桜会
- 工作教室
- 地域清掃活動
- 防犯パトロール



地域観桜会



工作教室



地域清掃活動

担当者コメント

総務人事部
総務課
吉田 渉



毎年、子どもから大人まで楽しめる企画を用意し、地域との交流を深めています。これまで築上げてきた地域との絆を維持しながら、時代に合わせたやり方でさらに発展させていきます。

社会との共生

豪雨や震災などの大規模な自然災害のリスクが高まる中、災害発生時における緊急支援の円滑な実施と地域防災に対する共助意識の向上を目的に、会社周辺の5つの自治区と地域防災協定を締結しました。避難場所や飲食物などの提供はもちろんのこと、日頃から相互の協力体制と連携を構築することで、災害に強い町づくりに貢献します。



地域防災協定を締結

福祉活動

1971年に社内託児所を前身とする『こじま保育園(現:こじまこども園)』の設立・運営をスタートしてから現在まで、グループ団体である社会福祉法人こじま福祉会が主体となり、福祉活動を通じて様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

豊田市内のこじまこども園では、ちびっ子パトロール隊として地域の防犯活動に積極的に参加し、豊田警察署から感謝状が贈られています。また、こじま福祉会の活動への地域理解や従業員との交流を深めることを目的に、『こじまキャンパス』と『こじま障がい者就労支援センター豊田市さくらワークス』の従業員を中心に、2024年ワーキャン祭を開催。車椅子やボッチャの体験、太鼓の演奏を披露し交流を深めました。



2024年ワーキャン祭り

- こじまこども園
- こじまキャンパス
- 豊田市さくらワークス



ちびっ子パトロール隊

国際交流

1984年に海外留学生を受け入れたことから国際交流活動がスタートしました。同年、(財)コジマ国際育英協会(現:(一財)コジマ財団)を設立し、アジアを中心に多くの留学生を受け入れ、現在も国際交流を継続しています。また、交流だけでなく、日本のモノづくりや伝統文化を体験してもらい、母国と日本の架け橋になるための人材育成にもつなげています。

取り組み一覧

- 中国青海省・小島奨学金奨励金授与式
- 青海日本文化交流のつどい
- 青海省短期留学生の受け入れ
- こじま留学生寮の提供



中国青海省・小島奨学金奨励金授与式



青海省短期留学生が南山大学生と交流



青海日本文化交流のつどい

ガバナンス Governance



コーポレートガバナンス

ガバナンス体制

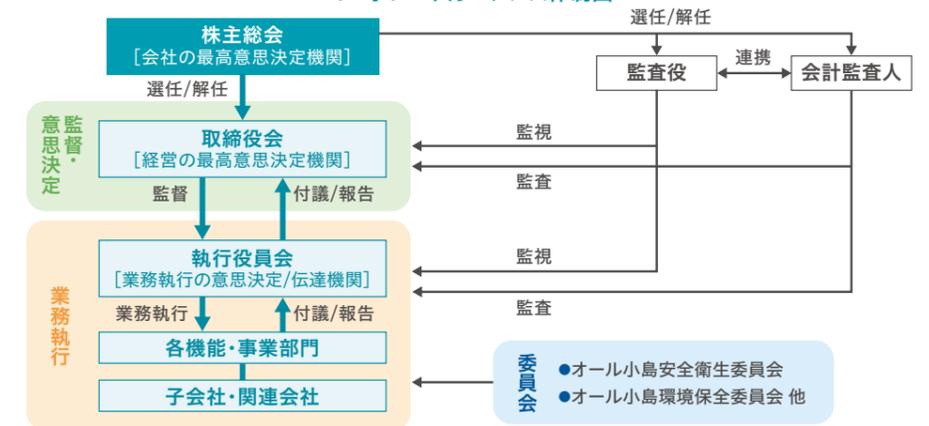
基本的な考え

法令を遵守し、公正・透明な自由競争や、迅速な意思決定を行う組織体制を開示することで、社会的信頼や企業価値の向上につながると考えています。また、リスクマネジメントにおいて近年特に注目されている情報セキュリティでは、リスクを未然に防ぐ管理体制の強化や、迅速なインシデント対応を可能にすることで、様々な外部環境の変化やリスクに柔軟に対応しています。

ガバナンス

当社は事業活動に関連する法令の遵守を徹底しています。これまでの事業活動において、得意先を始め、サプライヤー、地域社会など多くのステークホルダーに支えられながら成長してきました。今後も継続的な成長・発展を遂げる過程においては、自社の透明性を示す適切な情報開示が求められます。そこで当社は透明で公正な事業活動を継続できるよう下記のとおりガバナンス体制を構築しています。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

コンプライアンス推進

当社が健全な企業活動をするためには、安全基準や環境規制、労働基準法にいたるまで様々な法令遵守が必要とされます。また昨今では得意先やサプライヤーなど、すべてのステークホルダーとの関係の中で、遵守を徹底していかなければなりません。そこで当社はコンプライアンスを軸に社内規定や基準への落とし込み、守るべき内容を明確化することで全社員の意識を統一。ISOなどに代表される仕組みに準じた業務プロセスを確立することで、オール小島全体でコンプライアンス遵守への相互啓発が根付いた職場づくりを推進しています。

推進者コメント

経営企画部
経営企画室
室長 伊藤 剛一



当社は『規則やルールを守る』という事に対して非常に高い意識を持っています。一方で知識不足から、知らずにルールを違反してしまう可能性もありますので、今後はオール小島でコンプライアンスに関する正しい理解を深める活動を推進していきます。

オール小島のガバナンス体制を構築

オール小島経営体制の最適化と経営基盤の強化を経営課題としてとらえ、オール小島のマネジメントシステムの強化に取り組んでいます。1996年に経営の基本的な考え方の一つとして『分社分業の小島グループ経営』を掲げ、各社のコア技術を強化させながら透明・公正かつ迅速な意思決定をする体制を構築してきました。しかしながら世の中に新たな価値を生み出し、グローバル競争に打ち勝つためには、オール小島目線での連携による全体最適を目指さなければいけません。そこで『分社分業』の考え方で培ってきた基盤を『全社協働』という表現に発展させ、オール小島としての一体感をさらに強めています。またリスクマネジメントにおいては、特に情報セキュリティの面では組織体制の強化はもちろん、インシデント発生時の対応訓練を毎年実施。2025年度はオール小島の組織・人財・監査などの分野において共通のガバナンス体制を構築することで、より誠実な事業活動の継続により企業価値の向上に努めます。

常務執行役員 堀 智 経営企画部・IT企画部



Kjima

 **小島プレス工業株式会社**

問い合わせ先 / 総務人事部 総務室 秘書広報課

TEL.0565-34-6868(代表)

発行 / 2025年7月1日

対象期間 / 2024年1月~2025年3月

<https://www.kojima-tns.co.jp>

